

協働のまちづくりを進めるための

“まちづくり懇談会”について



平成27年5月1日校正 まちづくり係

目次

- ① 【概要】・・・（まちづくり懇談会の要約）
- ② 【目的】・・・（現状課題とまち懇再開の目的）
- ③ 【目標】・・・（まちづくり懇談会の目標）
- ④ 【プロセスの設計】・・・（目標達成のためのプロセス）
- ⑤ 【実施計画】・・・（実施スケジュール、運営と人員）
- ⑥ 【影響と成果】・・・（地域コミュニティと市職員）

【概要】

(まちづくり懇談会の要約)

まちづくり懇談会とは

- ①地域のコミュニティ(地域住民の集まり)において、
地域の問題課題について話し合い、(自助・互助・共助・公助のもと)解決に向けて行動する場となっていること。
- ②職員(地域担当職員)が懇談会に参画し、地域の話し合いを集約するとともに、地域コミュニティと行政の連絡調整等を行っていること。

概 要

- ① **14地区**でまちづくり懇談会を実施(予定)
- ② **平成26年5月から開始**
- ③ まちづくり懇談会の推進主体は、地域福祉活動計画における**座談会**とする。
- ④ まちづくり懇談会(座談会)の目標は、地域の問題課題や将来のことについて、住民や市職員が話し合い(知恵を出し合い)、自助、互助、共助、公助のもと解決に向けて行動できるコミュニティをつくること。
- ⑤ まちづくり懇談会(座談会)の各地域には、課長補佐級及び係長級をリーダーとした**地域担当職員**を3名～5名程度ずつ配置する。
- ⑥ まちづくり懇談会(座談会)における市職員の役割は、**地域の状況把握(課題把握)、地域への情報提供と連絡調整。地域が主体的に地域課題について取り組みが進むよう支援**すること。
- ⑦ まちづくり懇談会の目的、目標、職務等を明確にするため、各要綱の作成や地域担当職員に対し市長ヒアリングを実施する。

(ト山)

項目

事業・取り組み (中期)

できたこと

取り組みたいこと

<であい>

あたらふれあいセンターのサテライトを実施

サテライトが継続的に行えるよう参加しやすい環境を整える

あたらふれあい参加者
5~8人

新しいメンバー
かき増えた
(大山から190)

あたらふれあいの交流には
参加している

サテライト
早(10時)

朝のサテライト
早(8:30)
朝の時間に同じ
朝のサテライト
参加できる。

大山地区の
参加者が多い

公民館の活用

公民館を拠点として地域活動が行えるよう住民同士の話し合いの場、居場所づくりに取り組む

大山地区
からは3人
参加している

24年度から小難しい
たのしみはいろいろ
今年度3回交流
6月~12月
調理実習
など

子どもたち
に交流する
こと。利用者
にも希望
している。
地域の方も
小学生の成長
(前の親を思い出
している)

年に3回
は、日東
から体育館に
出向いて交流
して来た。

公民館が
まちな
館長と決り
公民館行事が
あたらふれあ
交流が活発
になる(大山地区)

<ふれあい>

多世代交流活動の実施

あたらふれあいセンターの事業と、学校行事の連携を図る

地区民の運動
は、小学生
の運動会
交流している。

8月夕涼会
地区外から
参加あり(28名)
大変盛り上がった!!

あたらふれあいの
会がきびしいが、
いっしょに考えて
自分たちで
(無理な事はない)
大山から通う
子ども達ばかり
4名
地域の方に参加
して運動会

大山の子ども
は、11月、2月
と通っている

地域の方に
も参加して
みた。

<かたりあい>

民生児童委員活動の推進
(日赤との連携)

地域の主たる団体である日赤活動と民生児童委員が相互に情報共有し、情報の提供など連携を図っていく

あたらふれあいの
会がきびしいが、
いっしょに考えて
自分たちで
(無理な事はない)
大山から通う
子ども達ばかり
4名
地域の方に参加
して運動会

あたらふれあいの
会がきびしいが、
いっしょに考えて
自分たちで
(無理な事はない)
大山から通う
子ども達ばかり
4名
地域の方に参加
して運動会

あたらふれあいの
会がきびしいが、
いっしょに考えて
自分たちで
(無理な事はない)
大山から通う
子ども達ばかり
4名
地域の方に参加
して運動会

<ささえあい>

高齢者等見守りネットワーク活動の推進

地域全体でお互いに助け合う意識付けを図る

あたらふれあいの
会がきびしいが、
いっしょに考えて
自分たちで
(無理な事はない)
大山から通う
子ども達ばかり
4名
地域の方に参加
して運動会

あたらふれあいの
会がきびしいが、
いっしょに考えて
自分たちで
(無理な事はない)
大山から通う
子ども達ばかり
4名
地域の方に参加
して運動会

あたらふれあいの
会がきびしいが、
いっしょに考えて
自分たちで
(無理な事はない)
大山から通う
子ども達ばかり
4名
地域の方に参加
して運動会

「対策」の基盤は「人のつながり」



「地震」; 誰の所へかけつけるべきか
「孤独死」; 誰の様子がいつもと違うのか
「児童虐待」; 親は誰と話しているのか



孤立化させる住民関係から、手を握りしめる住民関係へ
家族的関係性を地域で再生
家族と世帯員 → 地域と住民 ... 「地域は家族」



座談会とは、住民主体の行動計画（地域福祉活動計画） を策定するための懇談会

【地域福祉計画】

「地域福祉」とは、住み慣れた地域の中で、家族や友人、隣人などとの社会関係を保ち、まちの一員として生涯にわたって安心して生活できるよう地域を**住民の参画**を得て築きあげることを目指すもの。

【地域福祉活動計画】

活動計画は、**社会福祉協議会**を通じて策定される**住民主体**の行動計画（地域福祉計画の具体的な行動計画）

『安心とやさしさ
あふれる元気なまち』



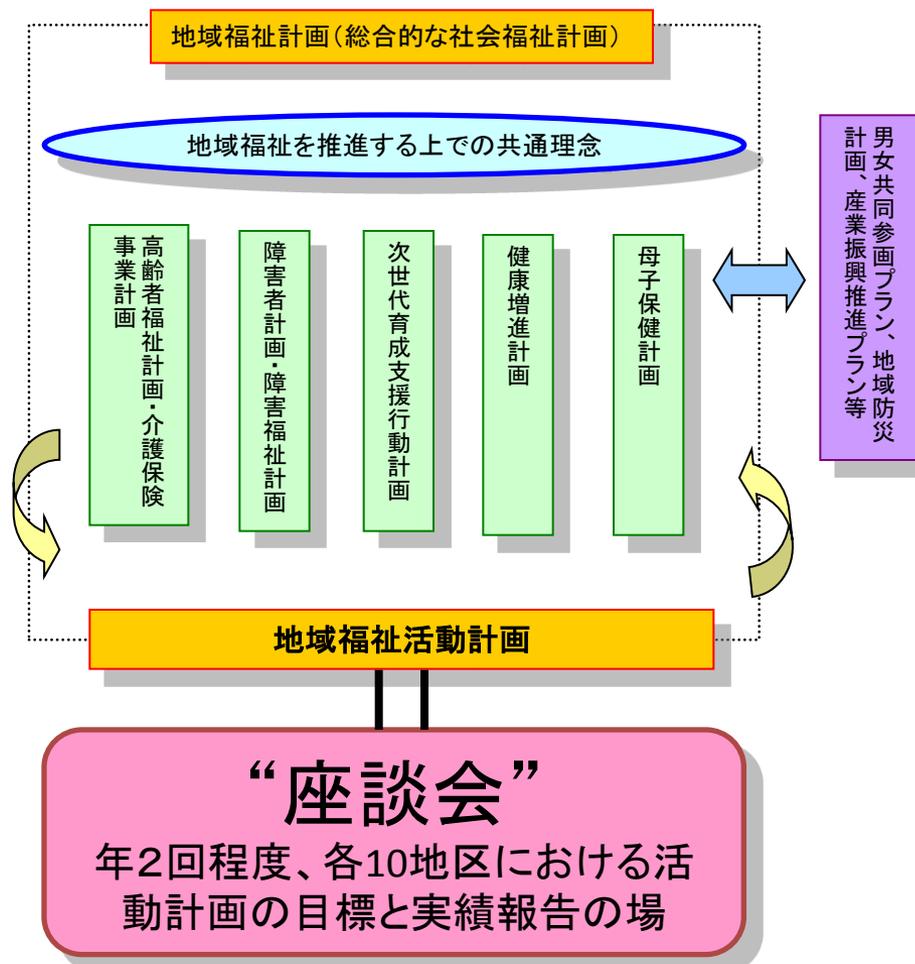
協働のまち

地域福祉通り

座談会号



市総合計画（協働のまちづくり）



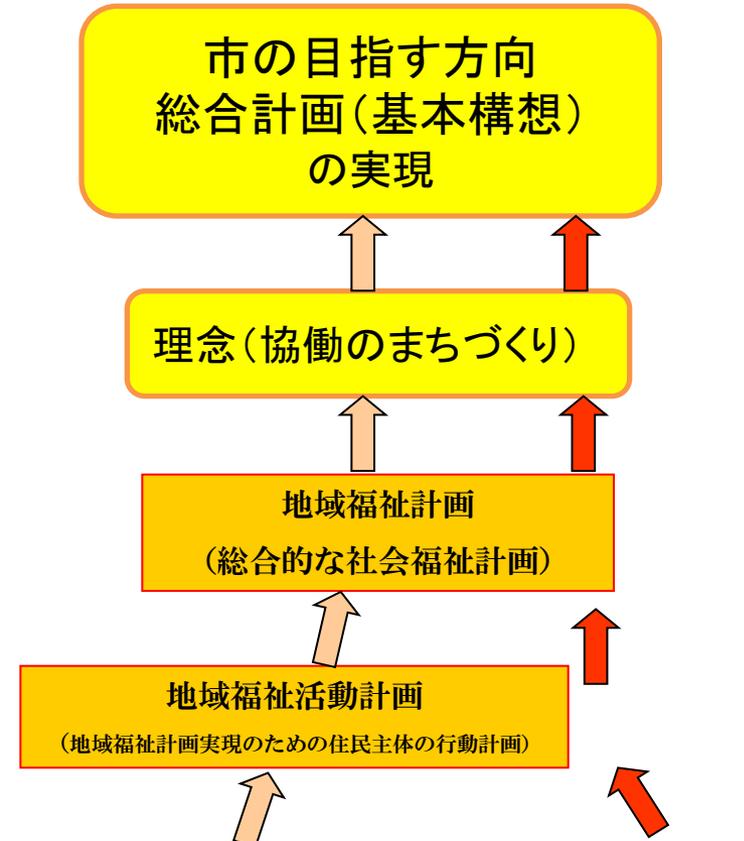
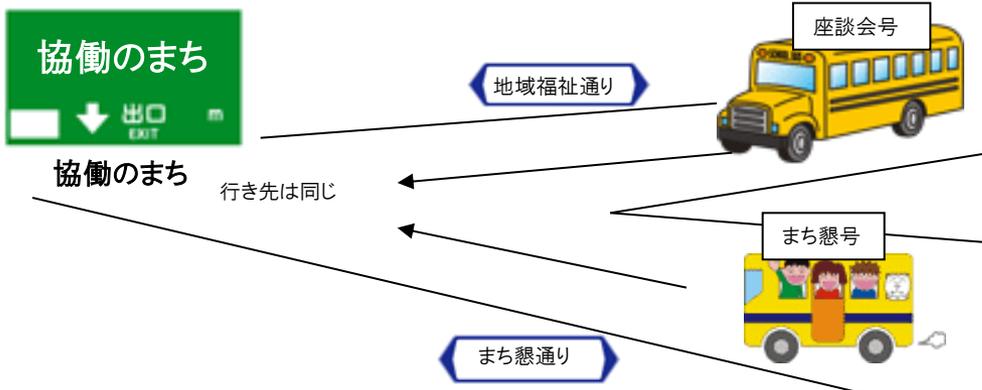
座談会の充実を、まちづくり懇談会で

『地域福祉活動計画における“座談会”に、“まちづくり懇談会”を加える』

(理由)：座談会、まちづくり懇談会ともに、自分たちの暮らし、自分たちの地域のことについて、地域住民や事業者と行政がそれぞれ、お互いの立場を認め合いながら、対等の立場で協力して、自助、互助、共助、公助の原則のもと、まちの将来を考え、まちづくりを進める協働のまちづくり（総合計画）を目指している。

(まちづくり懇談会の基本的な考え方)

協働のまちづくりを目指して、地域の住民が自分たちの地域をより快適で安心して暮らせるように、“地域の問題・課題”、“地域に必要なものは何か”などについて市職員とともに話し合い、解決に向けて取り組むこと。



座談会では、環境、担い手不足、防災など、保健、福祉等以外の多岐に渡った地域課題が出ている。

座談会の回数を増やし、地域担当職員が参加することで、 地域課題の解決に向けた取り組みを行う。

『安心とやさしさ
あふれる元気なまち』



地域福祉計画
(総合的な社会福祉計画)

一年間の成果
まとめ (振り返り)

社協や障害ふくし係だけでは守備
範囲が広すぎる。

座談会の内容充実(目標達成)の
ために、懇談会を重ねる



地域福祉通り

座談会で出た意見、問題課題の解
決に向けた話し合いの場を設定。
(2~3回程度)
そして、地域職員担当制度の導入



地域福祉活動計画

座談会では、環境、担い手不足、防災
など、保健、福祉等以外の多岐に渡っ
た地域課題が出ている。



“座談会”
(地域主体で活動する市内10地区)

【目的】

(現状課題とまち懇の目的)

現状と課題

1. 少子高齢化が進み、地域の結びつきや担い手が不足。
2. 地域課題について、話し合いをする機会がない。
3. 地域課題、ニーズの多様化により、行政の一律的なサービスでは課題解決が困難。

市総合計画の実現に向けて

- 安芸市総合計画（後期基本計画）2011より、『安心とやさしさあふれる元気なまち』を構築するため、“協働のまちづくり”を進めている。
- しかしながら、この協働のまちづくりの推進母体である“まちづくり懇談会”の取り組みが**停止**している状態にあった。
- 協働のまちづくりを進めるため、まちづくり懇談会の再開と活動支援が求められていた。

【目 標】

(まちづくり懇談会の目標)

具体的目標の確認

『協働のまちづくりを進めるため』

- ① “まちづくり懇談会(コミュニティ)”を
13地区(後に、14地区)で再始動する。
- ② 地域行事等に終始せず、地域課題について話し合いが
できるコミュニティを(再)編成する。
(Bタイプの構築、集落維持などコミュニティ再構築)
- ③ まちづくり懇談会醸成のための
“まちづくり連絡会”を設立する。

まちづくり懇談会14地区

(座談会では、栃ノ木・畑山、江川・川北、奈比賀・東川、安芸町を一地区としていた)



☆印は公民館長不在

“まちづくり懇談会”の目指す姿

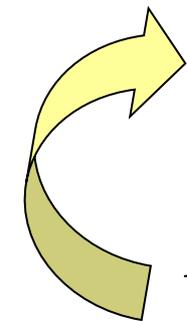
タイプA : 地域資源活用飛躍型

タイプB : 地域課題について話し合いができる
課題解決型

タイプC : 地区・伝統行事中心の町内会・自治会型

タイプD : 自主防災組織などの防災特化型

タイプE: コミュニティ機能ほぼ無
= 集落維持困難型(地区民運動会のみ、orなし)



目指す(目標)コミュニティ像 = 行政とのパートナーシップの構築

- ・Aタイプは精力的に市の支援のもと、地域資源などを活用し、地域活性化を目指す
- ・Bタイプは地域課題について話し合いができ、解決に向けた取り組みを進める
- ・Cタイプは地域行事に終始せず、地域課題について話し合いができるように
- ・Dタイプは地域行事等も行い、地域の問題課題について話し合いができるように
- ・Eタイプは出身者、地域おこし協力隊、地域職員担当制などで集落維持等を目指す

【プロセスの設計】

(座談会の活用と地域担当職員制度)

なぜ、まちづくり懇談会は継続できなかつたのか

まちづくり懇談会の目的、目標の共通認識があいまいで低調

- ・市担当職員の異動に伴う目的意識・認識のズレ
- ・懇談会の進行方法に差異。(課題探し、防災組織化偏重、補助金消化指向)
- ・地域住民への牽引力低下(地域担当職員のマネジメント力)
- ・地域担当職員としての責務が不明確



まちづくり懇談会再開(と継続)に向けたテコ入れのポイント

- ・地域が主体的に取り組めるようまち懇のベースは座談会
- ・懇談会の目的、目標などを設定([まちづくり懇談会実施要綱](#))
- ・市職員の役割等を明確にするため([安芸市地域担当職員制度実施要綱](#))
- ・地域、職員が課題探し、補助金消化指向とならないよう課題を事前整理
([地区別課題整理シート](#))⇒[平成26年度“まちづくり懇談会”報告を参照](#)
- ・行政と地域への“つなぎ”あわせができるよう地域担当職員の市長ヒアリングを実施(地域担当職員と市長との関わり)

【まちづくり懇談会の対象者と所管】

市内全域14地区

(対象者)

今の座談会メンバー(地区社協、町内会、部落会、各種団体、防災会など)で続け、課題解決に向けて必要なメンバーが出た場合に、地域が呼びかける。

(所管課)

地域福祉計画の目標設定、実績確認(福祉事務所)

地域福祉活動計画座談会の呼びかけ、最終まとめ(社会福祉協議会)

目標達成に向けた進行管理(企画調整課＝まちづくり懇談会)

【地域担当職員制度の導入】

(理由)

まちづくり懇談会(座談会)において、地域の話し合いを集約し、地域と行政が課題解決に向けて行動するため。

- ①職員配置は、行政実務の経験が豊富で、行政施策の企画担当者である補佐及び係長を中心とする。
- ②人材育成を見据え、経験年数の少ない職員を積極的に配置する。
- ③配置人員数は、3～5名程度で担当制の統括リーダーを1人、サブリーダーを1人置く。
- ④任期は2年

【地域担当職員の目標と活動内容】

【地域担当職員の目標】

住民起点に立って、現場実践の最前線を支える職員
地域と行政をつなぐ住民から信頼される誠実な職員

【地域担当職員の活動内容】

地域担当職員全員の役割・・・

- ①各地域で行っている座談会(まち懇)などに参加して、地域の現状や課題、地域の魅力を掘り起こし、地域の声などを施策につなぐこと。(現状把握、課題発見と解決、連絡調整役)
- ②地域の課題解決に対し、主体的な取り組みができるコミュニティ再構築(強化)のサポート

統括リーダーの役割・・・会議の事前協議、運営管理、座談会(まち懇)の進行補佐

サブリーダーの役割・・・統括リーダーの補佐

※その他 実施要綱及び[Q&A](#)参照

座談会(まちづくり懇談会)等への職員参加の取り扱いについて、地域は自分たちの地域課題の解決のために集まり、職員は、その地域課題の把握や連絡調整を行うため、業務として関わります²³。





【地域課題】

- ・産業廃棄物施設からの臭い、水質について
- ・地域の伝統、伝承などの歴史保存について
- ・水力発電の耐震化について

【情報発信】

- ・神社(天満宮)、安産地蔵・・・ご利益
- ・花
- ・まんじゅう
- ・藁草履

【その他】

- ・移住(地域の将来について)、交流
- ・下水道が自慢
- ・こうした話し合いの集まりがあることがありがたい

【実施計画】

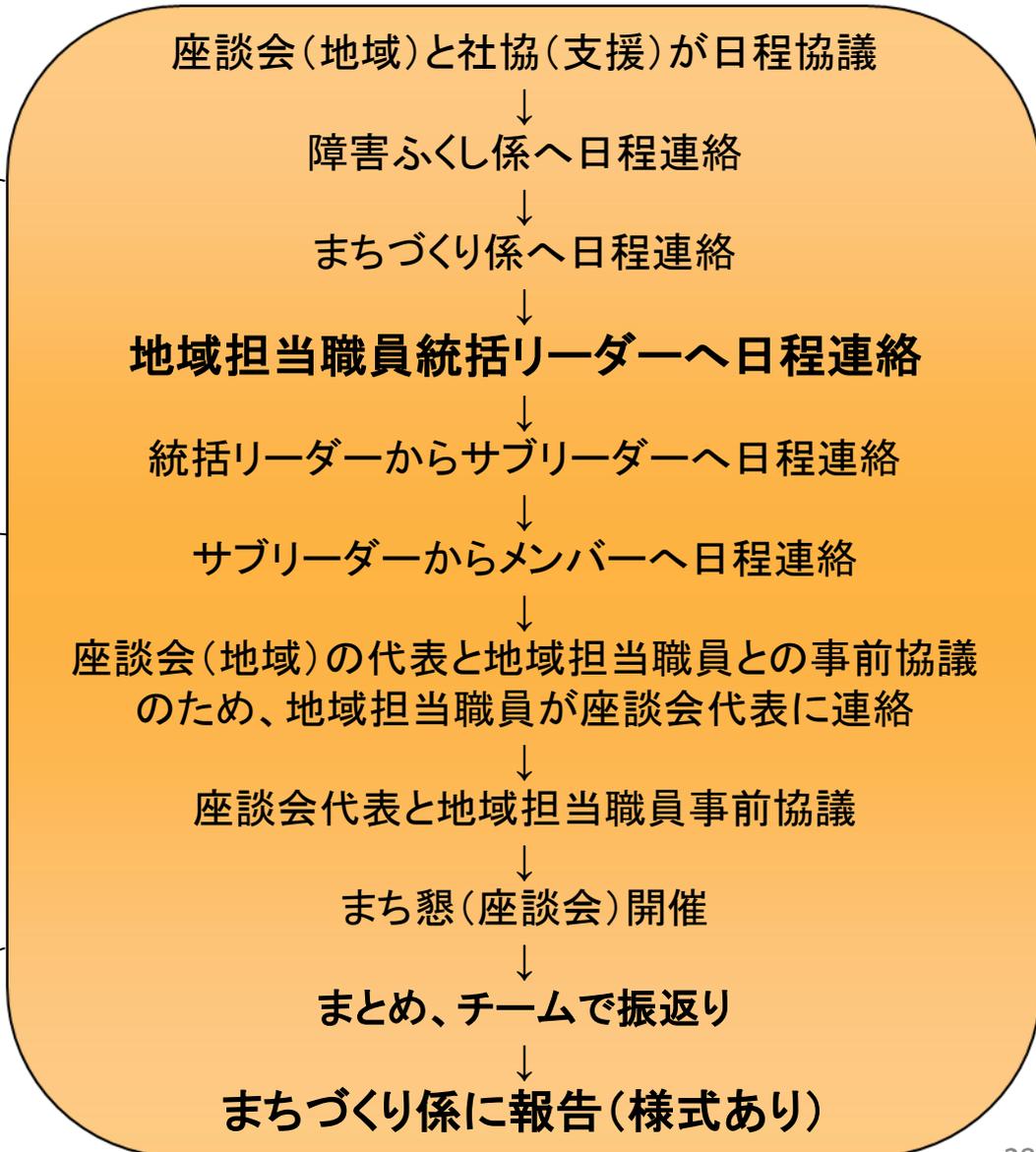
(運営とスケジュール)

【まちづくり懇談会（座談会）の流れ】

2月～4月
座談会（地域）＋社協（支援）
地域福祉活動計画の
当該年度実績及び次年度計画

7月～8月
第2回座談会（まち懇）
地域課題の掘り起こし
解決に向けたアクションプラン

10月～11月
第3回座談会（まち懇）
地域課題の掘り起こし
解決に向けたPDCA



【影響と成果】

(地域コミュニティの再生と市職員養成)

期待される効果

①市民目線で行政運営

（現場主義の行政運営、地域の生の声を聞き、問題課題を体感）

②職員の人材育成

（職場の殻を破り、異なる立場から自治体経営を振り返る。住民と語り合い、相談し、課題解決に向けて取り組む）

③協働のまちづくり

（自治体経営と地域自治活動の円滑な連動。創発効果を発揮した住民力）

住民にとって組織化するメリットとは

- ①住民同士が、お互いを知ることができる。
- ②地域課題が共有され、地域での協力・調整ができる。
- ③課題解決に向けた地域での自主的なまちづくりが期待できる。
- ④地域の総意をまとめて行政にも提案できる。

まちづくり懇談会再開の先に期待すること（安芸市長）

【加速化する少子高齢社会に求められる自治体経営の在り方】

まちづくり懇談会は、地域住民がお互いに顔の見える関係となる場面をつくることであり、地域の課題について、語り合い、支え合いができるきっかけとなるものである。

市職員はそうした地域という『現場』に『職場』から一步踏み込み、地域の生の声（課題）に耳を傾け、住民とともに悩み、時には必要な機関へつなぎ合わせる。こうした積み重ねが、頼りになる市職員、身近な市役所として、住民から厚い信頼を得られることとなる。

私が目指す自治体経営とは、地域住民の“起点に立って誠実な対応ができる”住民サービスである。

まちづくり懇談会を通して、市職員はさらに良くなったと言われるよう、人間的成長を遂げていくことを期待する。